

田中まことの  
神戸が撮っても好き⑩



還暦直前でプロゴルファーに!!  
神戸で撮影された震災から生まれた物語

ストーリー



# 「ありがとう」製作発表記者

万田邦敏(監督) 平山譲(原作者) 古市忠夫 赤井英和 田中好子 仙頭武則(プロデューサー) /



映画「ありがとう」

阪神・淡路大震災からちょうど11年。昨年は震災10年ということ、さまざまイベントが開催されましたが、映画やテレビ番組も、震災をテーマにしたものが何本か神戸で撮影されました。映画『あ



りがとう』は、被災しながらも還暦直前でプロゴルファーのテストに合格した古市忠夫さんを描いた作品。原作『還暦ルーキー』（平山譲著）や漫画化された『還暦ルーキー 逃げたらアカン』を読まれた

方も多いのではないのでしょうか。

震災当時、神戸市長田区の鷹取商店街でカメラ店を営んでいた古市さん。震災で家も店も失ったものの、街を復興させよう、災害に強い街を作ろう、と奔走します。そんなある日、自分の車が焼け残ったことを知ります。なんと、トランクにはゴルフバッグがあったのです。古市さんは、家族に「プロゴルファーになるわ」と宣言し、猛練習を始めました。そして、いよいよプロテストの日。大勢の若いゴルファーたちの中に古市さんの姿がありました。キャデイに助けられて闘った三日間。結果は見事合格でした。

その古市さんを映画で演じているのは赤井英和さん。古市さんの妻の千賀代さんは田中好子さん、キャディ役は薬師丸ひろ子さんが演じています。監督は『UNLOVED』の万田邦敏さん、映画の撮影は、2005年の6月から8月に行われました。神戸でのロケは、3週間。ロケ場所としては、ゴルフのシーンはも



宮崎県で行なわれた製作発表にはタイガー・ウッズさんも駆けつけモデルとなった古市忠夫さんとがっすり握手







ゴルフ場の撮影が行なわれた大神戸ゴルフ場。  
 ここでの撮影にもエキストラさんが出演。  
 左から2番目は万田邦俊監督。



長田港での撮影では駒ヶ林浦漁業会の皆さんにもご協力いただきました



ちろんゴルフ場、ということ  
 で、大神戸ゴルフ場で撮影さ  
 せていただきました。このシ  
 ーンには、仲村トオルさん、  
 永瀬正敏さん、豊川悦司さん、  
 佐野史郎さんといった豪華な  
 ゲストが賛同出演（映画の趣  
 旨に深く感銘を受け「勇気を  
 くれてありがとう」という製  
 作者の思いに共鳴して下さつ  
 た出演）していただきますので、ぜ  
 ひ映画をごらんになるときは  
 見逃さないようにして下さい。  
 また、今回の撮影では神戸  
 市の消防局と神戸市長田消防  
 団に大変お世話になりました。  
 消防学校（防災センター）で  
 の消防訓練のシーン、長田港  
 での消防車と消防邸を使った  
 シーンなどの撮影があったか  
 らです。これはヘリコプター  
 を使った大掛かりなロケで、  
 夏の太陽が照りつけるなかで  
 撮影しました。長田港でのロ  
 ケでは長田の駒ヶ林浦漁業会  
 の皆さんにも協力していただ  
 きました。実は、古市さんは、  
 1970年から2004年ま  
 で地元の消防団に所属しなが  
 らボランティア活動をされて  
 いました。



神戸空港島でも撮影、後方に見えるのはポートライナーの神戸空港駅



消防車も美術さんの手にかかればあつという間に東京消防庁に変身。こうした細部までも作り上げていく作業も重要！



神戸市兵庫区  
の湊山小学校  
でも撮影

ほかにも、区画整理の集会のシーンには湊山小学校をお借りして撮影したり、神戸空港島で工事現場のシーンを撮らせていただいたり…。いろいろな場所で大勢の方にご協力していただいて撮影することができました。映画のタイトル『ありがとう』には、古市さんの「わしらは生かしてもろてん。生かしてくれてる人に感謝せな」という思いがこめられているだけでなく、製作者や神戸フィルムオフィスからの撮影に協力してくださったみなさんへの感謝の気持ちもこめられています。

震災で崩壊した街の復興と、古市さんの挑戦と努力、彼を支える人々の姿を描いたこの映画は、きつとみなさんに勇気を与えてくれると思います。今年度公開予定の「ありがとう」。私も今から楽しみにしています。

田中まこ／1955年大阪生まれ。カリフォルニア大学ロサンゼルス校で2年学んだあと国際基督教大学編入・卒業。司会、DJ、通訳、翻訳などを手がける。2000年9月より神戸フィルムオフィス代表。

神戸フィルムオフィス  
神戸市中央区港島中町6-9-1  
神戸国際観光コンベンション協会内  
☎078-303-2021  
<http://www.kobefilm.jp>



## 神戸のお嬢さん

つぶらな瞳で  
海の向こうに  
夢を見つめる

吉川麻由子さん

(甲南女子大学行動社会学科四回生)



中学・高校と六年間チアガールで活躍し、  
現在、甲南女子大学行動社会学科の四回生。

いつも明るく元気な麻由子さん。活発な一面を  
見せるも、実は礼儀正しく育ちのよさを感じさせ  
るさわやかな女性です。

趣味はゴルフ。現在は宅建の勉強中で、卒業後  
はカナダに留学して外国人対象の不動産販売の仕  
事に就く予定です。夢を抱いて世界へと羽ばたく  
麻由子さん。活躍を期待しています。



推薦者 北出彌一郎  
株式会社服部宝生堂眼鏡店  
代表取締役

Maekawa Seiko de Koho  
神戸のお嬢さん

神戸に舞う  
笑顔の素敵なお嬢さん

石村奈々さん

(大阪音楽大学ピアノ科 回生)

昨年、私の母校である大阪音楽大学ピアノ科に入学した石村奈々さんは、我が家に下宿しています。私が出稽古をしている四国教室のお弟子さんで、十歳からはじめた日本舞踊の名取（藤間莉蝶）でもあります。

神戸の街や景色、ファッションなどすっかり気に入って、今ではすっかり神戸のお嬢さんです。すべてに意欲的で真面目で、ピアノも踊りもめきめきと上達。明るく素直で、成長が楽しみ。大きく羽ばたいてくださいね。



推薦者 藤間莉佳子  
日本舞踊家

(藤間莉佳子郎にて)





# 日本人の心に響く音色を奏でる

茨木寛子さん 生田流新絃社春重会



## ピアノの演奏が 琴の演奏にも生きていく

どこからともなく流れてくる心地よい音色。その旋律は、古都の光景や郷愁の思いを駆り立てる。昔から日本人が深く感動したという真情を「琴線にふれる」と表現してきたことから、その音色が、日本人の心の奥底に響き渡ってきたことを知ることができる。琴は弦楽器の総称をさし、

箏は柱を動かすことができるものという。琴の歴史は古く、秦の時代に初めて作られ、唐の時代になって日本へ伝来したといわれている。以降、日本でも雅楽として宮廷や神社の儀式音楽として用いられてきた。大正・昭和の時代になって、神戸生まれの宮城道雄が伝統に根ざした音楽に、西洋音楽を受けた新たな音楽を多数発表した。「春の海」は、その代表作として知られている。

琴の流派には、弦を弾く爪の形などから生田流と山田流に分けられる。生田流は、古曲から近代の曲まで、幅広いレパートリーで、幅広い層に受け入れられている。生田流

新絃社・春重会の茨木寛子さんは、その継承者の一人である。

茨木寛子さんが、はじめて手ほどきを受けたのが、まだ物心のつかない時だった。よちよち歩きのころから、琴をおもちゃに遊んできた。本格的に琴の稽古に励んだのは音大に入学してからで、それまではピアノに熱中した。

「琴とピアノは、手法が違うだけで、表現することは同じ。ピアノの演奏が琴の演奏にも生きています」と明るく笑う。

## 奏でる者も聞く者も 音色に癒される

NHKでは、昭和30年から現代邦楽の次代を担う優秀な演奏家の育成を行う「NHK邦楽技能者育成会」を設立した。今でも、第一線で華々し



く活躍する演奏家たちが、ここから巣立っていった。

育成会は、全国の18歳から30歳までの若手芸能者の中から、厳しい試験に合格した者のみが入会を認められる。寛子さんも音大在学中に、育成会に合格。一年間、週に一度東京で開催される講義に熱心に通った。ここで、当代きつての邦楽作曲家である杵屋正邦氏や藤井凡太氏といった大御所たちの薫陶を受けた。

「東京の先生方に教わったことは、技術的なことよりも、

もつと基本的なことだったと思います。息の合わせ方、間のとおり方とか。間の取れない人は、『まぬけ』って言うんだよ（笑い）と、教えられたことを覚えていません。いま思えますと、先生方のお話は、芸道のみならず日常生活についてもあてはまる訓辞だったような気がします」。

寛子さんが奏でる音色から、さぞかし熱心に稽古を積んでいることを想像するが、決してそうではない。家庭をもつてからは、稽古は就寝前のわ

ずかな暇をみて行う。

「稽古嫌いという訳ではありませんが、あせらずに、地道に続けていくことが、私には向いているような気がします」。

現在、琴は小中学校の指導要綱になっていて、寛子さんは、母春重さんと共に20名ほどの子供たちを指導する。

「生徒たちも熱心に演奏をしてくれまし、受講する生徒たちも多いんですよ。琴も日本人独特の楽曲。奏でる者も聞く者も、音色に癒される。

そこに琴のよさがあるのではないでしょうか」。

子供たちが、琴にふれることで、琴の魅力に気づいてくれていることに喜びを感じる。また、その反面、指導者としての責任の重さを感

感じています。



みつむねたくみ

三宗匠

好きな街に  
— 住みこんでしまおう —

ピリケンさんのいる松尾稻荷神社に隣接する稻荷市場。空き店舗が目立つこの場所に、三宗さんが代表をつとめる「住みコミュニケーションプロジェクト」事務局がある。

神戸芸術工科大学在学中、卒業論文のテーマであった「空き家が目立つ中心市街地に人々が戻ってくるための移住計画」から、このプロジェクトが始まった。「まちの活性化のための活動に身を入れるためには、外部に意見を出すより、その場所に足をつけて、住み込んでしまうことが重要」と、実際に事務所をかまえた。アートイベントの企画や、借り手を探す家主と、住みたい人（住みコミストと命名）を引き合わせたり、実際に住めるように手作りで改装を行ったり。事務所の2階には、プロジェクトに集まった住みコミストが実際に移住してきた。自身も近くに古い物件を見つけ、現在カナヅチやノコギリを持って改装中。

長い間閉まっていたシャッターが開き、夜になっても灯りが消えない事務所には、若者たちが集まってくる。以前からそこに住んでいた店主、住人たちを少しずつ巻き込みながら、新たなコミュニティが生まれている。



KOBECCO 2006

はまだ ようこ  
濱田陽子

—この道を極めたい—

ポップスや日本の歌曲など、身近な音楽を演奏する音楽家が増えている中、バッハやモーツァルト、テレマンなどの古典的な楽曲を選び、あくまでも正統派クラシックにこだわるフルーティスト。「先生の影響が大きいと思うんですけど」と言う。現在、アメリカ・バーモント州で92歳の作曲家、ルイ・モイーズ先生に師事している。冬はマイナス20度にまで気温が下がり、雪で埋もれてしまうというバーモント。芸術家を育てることに關して、とても積極的なこの街で、ホームステイをしながら勉強を続けている。

親戚にフルートをもらったのが出会い。村主徹、曾根亮一、塩嶋達美など多くの先生に学んできた。「先生はとても大切。学ぶ先生も大事だし、自分が自分の先生になることも大事だと思います」。

日々の猛練習を感じさせないチャーミングなキャラクターと、豊かな音色が、多くのファンを掴んでいる。「継続は力なり」と、とにかくフルートを続けること、古典にこだわるのが第一。「今は、この道を極めたいんです」。





# 清々しい 日本の 「お正月」

暖かい日が続いていましたが、冬の植物たちは、季節の風や雨に包まれて、新しい兆しを見せています。

南天の赤い実や、スイカズラ



95 Wisconsin 州クレメンス教授の庭園にて

きむら たえこ <ライフクリエイター>

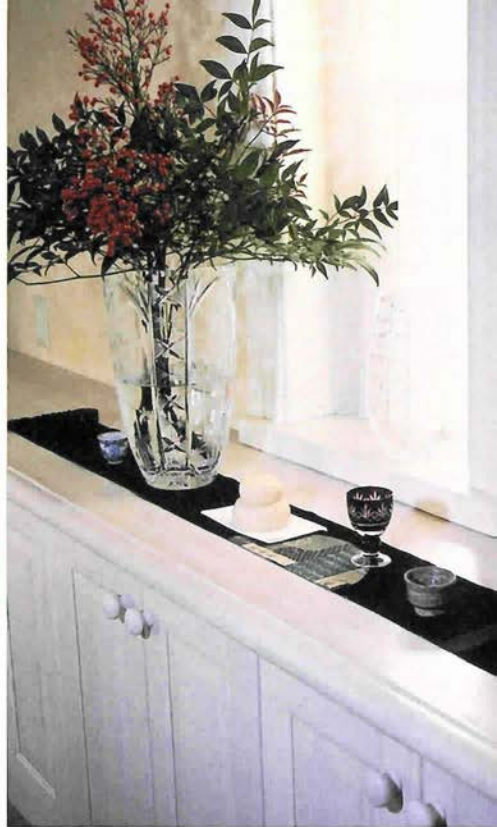
グラフィックデザイナー、インテリアデザイナーの仕事を離れ、'76~'80 ロサンゼルス滞在。'80~'92 芦屋大丸ライフコーディネーター。'92~'94 ミネソタ大学 ESL 留学。'03 梅花短期大学インテリア特別講座講師。'04 大阪ガスインテリアスクール特別講師。  
写真/木村多恵子

木村多恵子の

暮らしのエスプリ<1月>

— 親愛なるあなたに —

Dear Friends



の黒い実、通りの生け垣から覗いているあざやかな青い実は、何の実なのでしょう——可愛らしいそれらの姿は、小さいながらも力づくよく、寒さの中で冬の陽光を受けながら次の命をはぐくんでいるように思えます。

お正月が近づくと、急に冬の寒気が身にしみます。日常と変らない空間のなかで、凛とした清々しい新年の朝の空気は大好きです。新年を迎える心改まる気持や、母から習い覚えたお正月を迎える習慣は、変ることなく続いています。

子供の頃はお正月が嬉しくて、母の手伝いが大好きでした。家の大掃除は男の仕事で、兄たちも立ち働きました。お正月飾りは、今ではすっかり自分流です。テーブル・セッティングをイメージしながら、お正月の器を揃える楽しみは格別です。普段使わない赤絵の器や漆器に屠蘇器、家族や来客の箸袋に名前を書いて、お正月の花を生け……料理には、時間も手間もかかりますが、新しい年、お正月を祝う



気持を大切にしています。

一方、思い出のアメリカ・ロサンゼルスでは、その年の最後の日を祝います。日本の大晦日です。街中はパーティー一色になり、家庭では親戚や友人たちとシャンパンで集います。

隣りに住むデイビットはハリウッドで仕事をしている現役でした。出かける時はいつも、バラの花を胸にさしているのが印象的な老紳士です。その夜の我が家のパーティーに、シャンパンボトルをさげてやって来た時には驚きました。夫妻の突然の来訪でパーティー

は一層盛り上り、午前零時が近づく、「蜜の光」を合唱し、新年に向けてカウントダウン：ゼロ！ハッピーニューイヤーと乾杯します。

街では行き交う車からクラクションの大合奏。それはそれは、にぎやかなアメリカの大晦日です。

〈おわり〉



# 2006年 A Happy New Year

風さやか 元タカラジェンヌ

森田まさお オーボエ



来年も  
よろしく  
スリー  
ワ〜ン!



キョウ  
トコ  
ご〜す

あ子様も  
大歓迎



神戸っ子のみなさま、あけましておめで  
とございます。

2006年も風さやかと森田まさおの  
コンビで、「愛と夢」すてきな音楽ファンタ  
ジーを繰り広げますので、「靴のモリタ」  
と共にご声援くださいませ。

さっそくですが2005年の大晦日の  
夜から2006年の元旦にかけて、ラジ  
オ関西の電波にのせて、風さやかがみなさ  
まに明るく元気よく愉しく、「愛と夢」  
の音楽とトークをお届けいたします。

「特番」愛と夢、永遠のタカラジェンヌ  
2005年12月31日(土)

PM7時〜8時

除夜の鐘と共に生田神社へお詣りをし、  
たこ焼を食へて〇くおさまる

ラジオ関西お正月番組

愛と夢、永遠のタカラジェンヌ

2006年1月1日(元旦・日)

PM11時〜11時30分

靴のモリタ

1月2日(月)初売り

2日〜4日(水)福袋



愛と夢 素敵な  
**Friends Music Show**  
 感謝 ファン集い



震災を振り返り  
 決して忘れてはならないあの日を  
 5時46分、時をとめて祈りを  
 1月17日(火)1700円  
 サロンドあいらで皆さま方とライブ

2005年11月23日は、生田神社社会館におきまして、「ファン集い(愛と夢) Friends Music Show」を開催。沢山のご参加ありがとうございました。

当夜のアルバムから、風さやかダンスもベルばらもあり、お子様方と歌にダンスに…もちろん大好きなウルトラマンの歌やアンパンマン、ドラえもん等、ワイワイ…。

宝塚大劇場は1月1日元旦より「バルサイユのバラ」公演で輝かしい幕開けとなります。

1月10日(火)生田神社「年頭拝」にて「さやか&まさお」が年男の宮司様にお祝いとして邦舞(獅子)と愛と夢ショーを披露します。



元タカラジェンヌの皆様を  
 ゲストに招いてのトーク番組  
**風さやか 愛と夢 永遠のタカラジェンヌ**

毎週日曜 PM11:00~PM11:30 ラジオ関西 558にて好評ON-AIR  
 提供/おしゃはれは足元から…神戸・三宮 **入魂のモリタ** 078-391-9283





# 旅日記 ブーゲンビリアの咲く島へ

ばしふいっくびいなす  
屋久島・奄美大島・種子島と  
瀬戸内海クルーズ



屋久島に咲くブーゲンビリア

ばしふいっくびいなす号

デイナリー、そしてピアノコンサート。夜はあつという間に更けていく。沖にはまだ四国の光。それでも風景は着実に変わ

演奏に興じる。カリンアンブルのシャパンを片手に、ライブカムパーティー。ドレスコードに従ってスーツに着替え、メインホールへ。

夕刻、展望浴室へ。ふと外を見やる。黄昏が落ちる水面の向こうは、室戸岬。風呂から上がれば、すぐに船長主催のウエルカムパーティー。ドレスコードに従ってスーツに着替え、メインホールへ。

その後、部屋に戻り毒ガエルのような色彩の救命胴衣をまもって甲板へ。避難訓練だ。救命ボートに世話にならないことを祈る。

11月23日 出港  
長声一発！  
六甲にこだまする汽笛にのせ、デッキではまるで晴れやかな航海を予感しているようにバンドが名曲「サニー」を奏でている。岸を離れると紙テープが風に舞う。11時に出港、そして南へと向かう航海がはじまった。

つている。船はゆるやかなリズムを刻みながら、おだやかな海を往く。

あまり眠れぬ夜が明け、窓の外を見る。島影が見える。種子島の向かいの小島、馬毛島のように。甲板へ出ると、力強い島影、と言うよりは山影と、もくもくとした雲が眼前を塞ぐように現れている。

屋久島は周囲約1000キロの丸い島。九州一高い山はこの島にある。古代からそびえ立つ杉木立が残る、自然の宝庫。

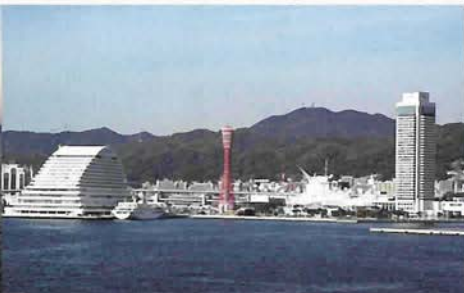
11月24日 屋久島  
屋久島は周囲約1000キロの丸い島。九州一高い山はこの島にある。古代からそびえ立つ杉木立が残る、自然の宝庫。とりあえず島を一周してみる。車を借りて、反時計回りでドライブを決め込む。宮之浦の集落を過ぎれば、もはや緑か海かの快適なドライブウェイ。しかし、いなか浜の美しい渚を過ぎ、いよいよ道は狭くなっていく。屋久島灯台を過ぎ、いよいよ西部林道へ。世界遺産登録地域の領域だ。

11月24日 屋久島  
あまり眠れぬ夜が明け、窓の外を見る。島影が見える。種子島の向かいの小島、馬毛島のように。甲板へ出ると、力強い島影、と言うよりは山影と、もくもくとした雲が眼前を塞ぐように現れている。

室戸岬付近を往く。海の上から望む夕暮れはひととき美しい

海から見た神戸。なかなか素敵な眺め。もっとPRしたいのに…

神戸出港。紙テープが舞うが、港で見送る人の数は多くないで少し寂しい





屋久島・宮之浦港に入港。  
海は快晴、しかし山には八雲立つ



食もクルーズの楽しみ。何を食べても味付けはやさしくて、飽きなかった



船長主催のウェルカムパーティー。  
スタッフの挨拶はみなウィットが効いて楽しかった

それにビックリして去ってしまっただけ。非常に反省。これから挨拶は手を振るのではなく、ウインクをすることにした。

道も険しくなり、いつ動物たちが出てくるかわからない。そろりそろりと車を転がす。ふと、前を鹿が横切る。びよんと跳ねて山へ戻っていく。

しばし車を降りて歩いてみる。仰げば国割岳の頂、翻れば東シナ海の水平線。空気は頬に冷たく、沢の水は澄みわたっている。鹿たちもすぐそこにいる。もしかしたら大昔、このような自然は身近にあったのだらう。でも今は、絶海の孤島まで来ないとこんな場所はないのだらうか。

雄大な大川の滝をあとに、湯泊温泉へ。防波堤の向こうの浜に湧く、まさに「天然温泉」だ。岩の上に服を脱ぎ散らし、潮騒を聞きながら、かすかに硫黄の香る人肌くらいにぬるい湯に浸かる。少し肌寒さを感じたが、湯から上がると不思議と身体がぼかぼか暖まり、やがて汗が出てきた。

ブーゲンビリアの紅を愛でながら、島の南の中心

尾之間の集落へ。旅に出るといつもそうなのだが、地元のスーパを覗いてみる。ついでにお昼ごはんを買う。

ここから東海岸をまわる。途中、屋久杉自然館で森林鉄道が現存していることを知り、その鉄路を確かめて宮之浦へ。

車を返却し港へ戻る。途中、船を見に行ったというおばあさんと言葉を交わす。「船が来て、飛行機が来て、島には観光客がたくさん来るようになりました。でも息子や島の若者たちは、この島を出たまま帰ってこないのですよ。」それが離島の現実なのかもしれない。

### 11月25日 奄美大島

船旅も3日目。奄美大島・名瀬へ上陸。まずは港から名瀬の市街へと歩く。奄美の中心、名瀬の街は大きな街で、繁華街やアーケードと一通り揃っている。青果店の軒先には枝ごと島バナナが吊され、どこか南国情緒溢れている素敵な街だ。  
街の中心で原付バイクを借り、一路、島の北部を目指す。まずは田中一村終焉の家へ。

大きなクワズイモの葉の向こうに鹿を見つける。  
撮られ慣れているのか、カメラ目線



猿たちはガードレールの下がお気に入りの様子。  
親に抱かれた子猿はぬいぐるみのよう



海の向こうには口永良部島の島影。  
あそこへ行くには屋久島から1日1便の船便のみ







屋久島は水が豊富。  
大川の涌は水量も豊かで爽快



草木染めの工房を見つめる。屋久島の植物で染めるそうだ。  
コボル/ ☎0997-47-2150

屋久島南岸の湯泊温泉はいつも入れるが、  
近くの平内海中温泉は干潮時しか入れないらしい

田中一村。画家。1908年栃木県生まれ。幼い頃から画才を発揮。東京美術学校入学後すぐ中退し、以降、中央画壇とは一線を画す。50歳の時に奄美へ渡る。大島紬の染色工として生計を立て、蓄えができたなら絵を描き、己の信念を貫いた。

色褪せた板壁の小さな家。四方に流れるトタン屋根は、いかにも南の島の家らしい。一村はサッシ窓に「これで雨の日も絵が描ける」と喜びこの家を大変気に入っていたそうだが、引越してわずか十日後に急逝。1977年のことだった。

一村の魂を奄美の自然が覚えているのか、ガジュマルの木もれ日に美しい蝶が舞う。彼の絵のワンシーンのように。

そして田中一村記念美術館へ。大胆な構図。繊細な陰影。写実的にして幻想的。ピロウの葉、パイヤの実、鳥影など、墨の絶妙な色合いによる立体感息を呑む。絵を愛し、島を愛したその眼差しは生命の躍動を捉え、昇華した表現に背筋が震えるほど気を感じた。

一村が愛した奄美大島は、

どの場面を切り取っても色彩、特に青が美しい。龍郷の入江の深い青、あやまる岬から望むコーラルの淡い青。豊かな青の抑揚は、海岸線の変化が大きい奄美ならではの。島の北端。道がぶつりと切れる。その傍らから用岬（笠利崎）の灯台へと登る。目が回るくらい急な坂道に息も絶え絶えになる。灯台からの眺めは荒涼としながら光がまばゆい不思議な感じだ。透けるような青い海。抜けるような青い空。ふと、大きなカマキリが洗いざらしのジーンズに飛び込み威嚇してきた。インディゴのくすんだ青がお気に召さないようだ。

薩摩からやってきた役人たちをもてなす席で振る舞われたのが起源という鶏飯（けいはん）は、すっかり奄美グルメとして定着している。かつては炊き込み御飯だったそうだが、たまたま通りがあった赤木名という街とあるお店が現在のスタイルの鶏飯の元祖だという。白ごはんの上に鶏肉、錦糸卵、椎茸にネギなどの薬味をのせ、鶏のスープをたっぷりかけて食べる。



「一村の絵はがきを船室で写す。美術館で見たこのパイヤの絵の实物には感動した」

田中一村の旧宅。以前は違う場所にあったが、区画整理で移転したそうだ



ランチはピロウのすり身揚げ、赤貝ワカメ、ひじきごはん、そして屋久島の湧き水





あやまる岬を望む海岸で見つけた漂着物。  
上から見ると正方形。何の実だろう？

奄美大島名物の鶏飯。  
鶏肉の旨味が深い。



奄美大島北端部、用という集落の海岸。  
珊瑚の海にアダンの木

11月26日 種子島  
一番で船をおりる。歓迎のセレモニーは火縄銃の実演。法律の関係で新しい銃は作れないとのこと。鉄砲伝来の地に残る歴史の生き証人はみな御年百歳以上だがよく手入れされていて、威勢よく火花を吹き上げる。  
種子島の上陸時間はわずか6時間。そう遠くには行けないし、とりあえず移動手段がない。なければ自分の足しかない。島間から南種子町を中心、

じんわりと舌を旨味が包みながらあつさりしたスープで、サラリとお櫃一杯を平らげる。  
帰りは遠回り。龍郷から湾沿いに外海へと出て、リアス海岸の壮大な起伏に追われた海岸線の道を行く。眼にするのは海の青と、ソテツ、パシヨウ、サトウキビの緑ばかり。民家は少ない。ガス欠の危機を乗り越え名瀬に。  
18時、名瀬を出港して種子島へ向かう。船中で一村の絵はがきを故郷の友人にしたためた。私も栃木県生まれ。一村は奄美だけでなく、わが郷土の誇りでもある。

上中まで約8キロほど歩いてみる。  
漁港を覗き、島間の集落を出て国道を歩く。種子島はなだらかな丘陵が続く島で、軽いアップダウンがある。サトウキビ畑の向こうには、ひたすら緑が海かが広がっている。小高い丘からは屋久島の山々が眺められるそうだが、今日は雲がたなびき視界を遮っている。しかし足下には小さな花が咲き、小島のさえずりも心地よい。  
途中、島の人が畑仕事をしている光景に出会う。芋を掘り起こしているようだ。その先には老婆がさとうきびの下草を刈っている。こんな何もないようなところでも、人々は遅く生きていく。自分は普段仕事をしていた、果たして遅い姿に映るのだろうか？  
上中へ到着。コンビニやスナック、パチンコ店まで揃っている。このまま船に戻るのも何なので、さらに約2キロ先の河内温泉へ向かう。雨がパラパラ舞いだした。道を急ぐ。温泉の建物が見えたその時、稲妻が光った。雨も激しくなってきたので、あわてて駆け込んだ。

種子島にはサトウキビ畑が一面に広がる。ちなみにハブはいないそうだ

種子島の入港セレモニーのワンシーン。  
別に船を襲っている訳ではありません



島間港で水揚げされた魚たち。カラフルで大きい。どんな味がするのだろうか







ばしふいっくびいなすのスイートルームを見学。  
バルコニーやビューバスもあって豪華



アブラメはその名の通り脂がのって、甘くて美味しかった。  
ちなみに1パック300円だった



上中にて。  
種子島名物のカライモらしい

「屋久島の宮之浦港はうねりが入りやすく、この時期入港できないことも

本誌「海船港」の上川氏と旅行ペンクラブの小森氏に同席し、ブリッジ後の船長室へ。七つの海を識り、約2万7千トンを操る仕事ゆえにワールドな「海の男」をイメージしていたが、いざ会ってみると物静かな紳士だった。

早速湯船へつかるとする。ツルツルと肌を滑るお湯は、さっぱりしていて心地よく、よく温まる。露天があれば言うことなしだ。身も心も洗濯して、船に戻るとする。ちょうど良い具合にバスがあり上中へ。

「屋久島の宮之浦港はうねりが入りやすく、この時期入港できないことも

日本クルーズ客船の配慮で、津畑一美船長にお話を伺う機会を頂いた。本誌「海船港」の上川氏と旅行ペンクラブの小森氏に同席し、ブリッジ後の船長室へ。七つの海を識り、約2万7千トンを操る仕事ゆえにワールドな「海の男」をイメージしていたが、いざ会ってみると物静かな紳士だった。

少なくないのです」とのこと。なるほど、宮之浦港の入港を甲板で見ているが、静かな波だったのが岸壁すれすれに船を回転させていた。波が荒かったら大変だ。上川氏曰く、津畑船長の操船技術は世界でもトップクラス。その船長が「今回のクルーズは特別おだやかです」とにこやかに語るとは、どれだけ恵まれていた航海だったのだろうか！

西丸與一ドクター。この人の存在が、どれだけ航海に安心を与えていることか！

津畑一美船長。約200名の乗組員をまとめ、年間約250日を海の上で過ごすという

ブリッジでは航海士たちが安全を守っている。金比羅さんが祀られていた



展望大浴苑(9階)とご昼食プラン

そうしゅんふ

# 奏旬譜

平日 6,000円 休日 6,500円(税・サ込)

お食事時間 1回目/11:30より ※ご入浴は時間内に1回のみとさせていただきます。  
2回目/13:00より ※お部屋・浴衣をご用意いたします。  
ご入浴時間 11:30~15:30 ※前日までにご予約をお願いいたします。  
※洋食・中華コースもございます。



※お料理部では日替りメニューをご用意しております。

※写真はイメージです。

## 有馬グランドホテル

■予約専用電話 ☎078-903-5489  
(午前9時~午後9時)

■ご予約以外のお電話・お問い合わせは ☎078-904-0181(代)  
〒651-1401 神戸市北区有馬町1304-1 FAX(078) 904-0297

ホームページ <http://www.arima-gh.jp/>

甲板から海面を眺める。  
今回の航海は本当に穏やかだった



来島海峡をゆく。  
今度はこの橋を渡って  
しまなみ街道を訪ねてみたい



11月25日 瀬戸内クルーズ

いつしか瀬戸内の島々が迫ってきている。甲板に出ると、朝霧の向こうに遠くしまなみ街道の来島海峡大橋が見える。

橋の下をくぐるタイミングを計って朝食を済ませ、再び甲板へ。潮はゆるやかに渦を巻いている。来島海峡とはこんなに狭かったのか？それともこの船が大きいのか？

少し冷えた身体を、展望風呂で温める。海峡を過ぎて燦爛の広い海原。広がる視界が心地よい。10時頃、再び甲板へ。

瀬戸大橋を仰ぐ。橋の袂には漁船。絵になる風景だ。小豆島を望む頃には、空の雲がどこかへ散っていた。やはり瀬戸内には陽光が似合う。

昼食後は自室で微睡む。船旅ならではのゆっくり過ごす時間。風景を眺めるのも楽しいが、心地よく睡魔に身を委ねるのも悦楽。ふと目が覚めると、明石海峡大橋を過ぎていた。慌てて荷物を整理し、クロゼットに掛けていたジャケットとともに旅の思い出を疊んだ。

(小柴 記)

瀬戸大橋。見せ場が多い瀬戸内海は世界に誇るクルーズスポットという上川氏の意見に納得





## クルーズで訪ねた エーゲ海・黒海沿岸の国々



上川庄二郎 著  
神戸っ子出版  
1,700円(本体+税)

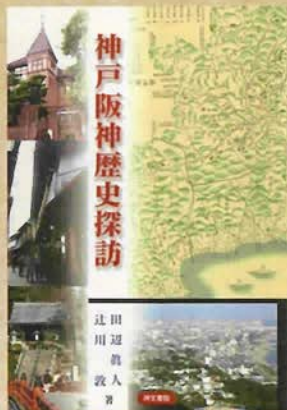
本誌に「海船港」を連載中の上川庄二郎氏が、クルーズで訪ねたエーゲ海・黒海の船旅を綴った一冊。

日本人にはなじみの薄いエリアだけに、美しい写真は興味深い。観光地のみならず、何気ない街の日常、船上からの美しい眺め、そして人々の豊かな表情は、遠い空への旅情をかき立てる。

ただ観光地をめぐるだけでなく、その地域に住む人の生活や地域の文化背景に興味を抱く旅のスタイルと、深い含蓄が本書をただの旅行記の領域に留めない。例えば船内で配布される資料の翻訳文など、実際にエーゲ海・黒海を旅するとしても役に立つ情報も含まれており、案内書としての機能も兼ね備えている。

日本人は忙しすぎるのか、あるいは楽しみ方を知らないのか、クルーズ人口が意外に少ない。しかし、欧米では観光の場においてクルーズはひとつのメジャーを獲得している。より一層日本のクルーズを活性化させるためにも、本書は大きな役割を果たすに違いない。

## 神戸阪神歴史探訪



田辺真人・辻川敦 著  
神文書院  
2,000円(本体+税)

産経新聞に連載された「神戸阪神時空散歩」が一冊の本になった。本誌でもおなじみ、園田学園女子大学教授の田辺真人氏が神戸エリア、尼崎市立地域研究史料館の辻川敦氏が阪神エリアを担当。毎回地域とテーマを決めて執筆しているので、まち歩きにも実用的な構成になっている。

神戸や阪神間はハイカラとモダンで近代に開かれたイメージが強いが、実は古代から奥深い歴史がある。神戸ゆかりの歴史上の人物と言えば平清盛、楠木正成、豊田秀吉が有名だが、それ以外にも在原業平、水戸光圀公、孫文といった超メジャーなキャストに彩られているのも驚きだ。

話題も興味深い。幕末に開かれた幻の参勤交代のルートや、夢野の地名の由来など、「へえ〜」と「なるほど」が詰まっている。

先人たちがたくさんのドラマを繰り広げて生み出されてきた「歴史」は、まさに地域の財産。地域社会から文化や教育を見直す手がかりとしても一読をおすすめしたい。

# 2006年1月の 貴方 by 杏璃の占い

※節分より前の誕生日の方は、前年の星となります。

## 一 白水星

(大7、昭2、11、20、29、38、47、56、平2、11生) ◆**運気絶頂運**

今まで努力してきたことが実り、見通しがつく月です。チャンスをつかんだあなた。思案していると折角の運を逃します。行動力が決め手です。準備万端を心がけること。ラッキーカラーはオレンジ。

## 二 黒土星

(大6、昭元、10、19、28、37、46、55、平元、10生) ◆**衰運** 甘い誘惑の手が、あなたにふりかかってくる。心は乱れますが、優柔不断な態度はとらない事。ことばの誤解や書類上の不備に注意。積極的な行動はタブーです。空回りします。

## 三 碧木星

(大5、14、昭9、18、27、36、45、54、63、平9生) ◆**衰運** 今は身動きがとれないあなたです。自分の常識で行動したことが正しくない結果となつたりします。自己改革

が必要。控えめに行動してください。友人とのコミュニケーションが開運の鍵です。ラッキーカラーはグリーン。

## 四 緑木星

(大4、13、昭8、17、26、35、44、53、62、平8、17生) ◆**開運** 明るい希望に向かって進む絶好のチャンスを手にしたあなた。人間関係も好調で挑戦欲もわいてきます。

## 五 黄土星

(大3、12、昭7、16、25、34、43、52、61、平7、16生) ◆**盛運** 財運

があなたに廻ってきています。努力すればするほど結果となり、実を結びます。多忙な月で活躍が期待できます。恋愛、交渉事など成立しやすしい。強引になりすぎず配慮すれば完璧です。ラッキーカラーはブラック。

## 六 白金星

(大2、11、昭6、15、24、33、42、51、60、平6、15生) ◆**計画月** 現状に不満なあなた。運命のリズムに変化が生じています。運氣に左右されず慎重さが求められています。目標を決めて1年の計画を立てましょう。

発想の転換がキーワードです。ラッキーカラーはワインレッド。

## 七 赤金星

(大元、10、昭5、14、23、32、41、50、59、平5、14生) ◆**強運** 今までも努力しても認められなかったあなたも、チャンスの切符を手に入れました。良いと思つた事は即実行してください。良いことも悪いことも表面化します。悪い人とは手を切るチャンス。ラッキーカラーはホワイト。

## 八 白土星

(大9、昭4、13、22、31、40、49、58、平4、13生) ◆**強運** 金運、恋愛運ともに良好で楽しい月です。ルンルンのあなたですが、あせってはいけません。落ち着いてあわてず行動して下さい。コミュニケーションをとって心配りをするとう

## 九 紫火星

(大8、昭3、12、21、30、39、48、57、平3、12生) ◆**変化改革運** いろいろな問題が発生したり、自らも変化を求めたりするあなたです。他の人のアドバイスに耳を傾け、前後策をとってから実行にうつして下さい。トラブルが発生しやすいいので油断しないこと。ラッキーカラーはゴールド。

たきざわ か ゆう  
25年の易学と10年の奉仕活動で実績を積み、イベント等にも出演。確かな信頼で経営者、プロ野球選手まで数多くの運を開く。ストレスを取り除きパワーを注。占術は人相、手相、霊感、姓名など。  
●鑑定スケジュール:日・月・木の11時~19時 090-3972-8438



別所杏璃先生  
独特の感性と的確なアドバイスで、幅広いファン層を持つ頼もしい異色占い師。恋や仕事の悩みにも、親身になって的確にアドバイス。占術はタロット、四柱推命、九星気学、数理占術など  
●鑑定スケジュール:水曜定休、12時~18時 080-1423-3750



滝沢幸慶先生  
25年の易学と10年の奉仕活動で実績を積み、イベント等にも出演。確かな信頼で経営者、プロ野球選手まで数多くの運を開く。ストレスを取り除きパワーを注。占術は人相、手相、霊感、姓名など。  
●鑑定スケジュール:日・月・木の11時~19時 090-3972-8438

営業時間 10:30~19:30  
第1,2,3,4水曜定休  
☎078-392-0144  
鑑定料 3,000円~/30分

MOTOMACHI 1-BANGAI

三栄ビル  
JR元町駅 西口 徒歩5分  
JR元町駅 東口 徒歩5分

天神 Plaza  
モトマチビル  
センター

神戸市中央区  
元町通2-3-2